

本書は、高等学校や大学教養課程の学生、あるいは一般の成人の方々に向けて編纂されたもので、「水の科学」がやさしく述べられています。タイトルの「水から学ぶ」には「自ら学ぶ」の意味もこめられています。初版は平成18年に発刊されましたが、今回の改訂版には、高等学校での出前講義をコーディネートしていただいた東京都立富士森高校の長谷川博之先生の編集による「水環境と人間生活」の章も加わりました。初版、改訂版共にとうきゅう環境浄化財団の後援により発刊されました。

近年、食・水の安全性が危ぶまれています。環境影響生化学教室では、とうきゅう環境浄化財団の支援を得て、多摩川を中心に、東京都内、千葉県内の水道水源となっている河川の水質を調べています。飲用水の水質検査として、現在、一般的に行われているのは成分分析であり、金属、有機物、塩素消毒の副生成物、農薬など全部で50項目の検査内容が法律で定められています。けれども、ヒトが飲用する上での安全性となると、成分分析だけでは不十分で個々の成分が全体として生物に及ぼす複合的影響も調査する必要があります。そこで、水サンプル中の多くの成分によるヒト細胞への悪影響を調査することにしました。本書には、その方法の簡単な説明やこれまでの調査結果が書かれています。

また、水の科学として、細胞内での水の働き、ヒトの体内での水の役割、水と健康などがやさしい言葉で書かれています。難しい専門用語には、キーワードの説明表を添えて分りやすくなっています。これまで行ってきた「水に関する市民講座・出前講座」の紹介や聴講者のアンケート内容も書かれていて、いかに現代の人々が水を大切に感じているかがわかります。「水環境と人間生活」の章には、水の物理化学的な性質、水と生き物、水を取り巻く自然環境なども書かれ、さらに充実しました。水に関するまとまった情報はなかなか得られにくいのですが、本書には上に述べたほかにも、水に関わる単行本や雑誌なども多く紹介されています。